

もりのくに・にっぽん運動

「森の名手・名人100人」の選定

主催

社団法人 国土緑化推進機構

趣旨

森と関わる技や知恵の伝承や文化を掘り起こし、森とともに生きてきた日本人の“ライフスタイル”を見つめ直すため、平成14年11月にスタート。

森の名手・名人

森に関わる生業や地域生活に染み込んだ営みのうち、優れた技をもってその業を極め、他の模範となっている達人のことをいい、平成14年11月「もりのくに・にっぽん運動」のリーディングプロジェクトとしてスタート。

「森づくり」「森の恵み」「加工」「森の伝承・文化」の4部門を設け、毎年、全国で100人を選定。

森づくり部門
造林手
福岡県 馬場 関夫さん



森の恵み部門
しいたけ栽培
岡山県 石原 慧士さん



加工等部門
和ろうそく作り
兵庫県 松本 純男さん



森の伝承・文化部門
ホームスパン・藍染め
北海道 松浦 千代子さん



連携

森の“聞き書き甲子園”

- FOXFIRE IN JAPAN -

主催

森の“聞き書き甲子園”実行委員会

構成：林野庁、文部科学省、(社)国土緑化推進機構、NPO法人樹木・環境ネットワーク協会

目的

都市と山村との世代を越えた交流を促進し、失われようとしている山の暮らしや埋もれかけている生業・技に光をあてることにより、

- ◆ 森を護り、育て、その恵みを活かして持続的に循環させていくことの大切さを社会一般へアピールする
- ◆ 自ら課題を見つけ、学び、考える力を持った若者を育てる
- ◆ 疲弊しつつある山村地域に活力を与える

内容

全国から募集した高校生100人が、専門家による指導を受けた後、「森の名手・名人100人」を直に訪れ、名人の技や人となりをも「聞き書き」し、その成果(レポート)を広く発信するもの。平成14年からスタート。

聞き書き：取材・インタビューによって人の話を聞き文字にして記録する手法

FOXFIRE BOOK：1966年、アメリカ合衆国ジョージア州の高校生が、伝統的な技術・知恵を伝承しながら生きている人たちのところに行き、そこでの見聞をまとめたレポートのこと。なお、FOXFIREとは、枯れ木に生える苔が発する燐光のことを指し、かの地では「自然」という教師が人間に与え続けている知恵の象徴、と考えられてきた。

森の名手・名人：木こり、マタギ、炭焼きなど森に関わる生業や地域生活に染み込んだ営みのうち、優れた技をもってその業を極め、他の模範となっている達人のことをいい、(社)国土緑化推進機構が選定するもの。

「聞き書き」研修(9月13～15日)



「聞き書き」取材・レポートの作成(10月～1月)



公開フォーラム(3月)



14年度参加者の
感想

参加高校生：「森は大切だ」ということを言葉としてではなく、目や耳や鼻、体の全体を通し、実感としてわかりました。
森の名手・名人：「私は、今日まで林業をやってきて、こんなに勇気づけられたことはありません。」